皇太子嘉仁親王，東北巡啓

薬学雑誌 1908 年度 1228 頁，1235 頁

明治 41 年 10 月，後に大正天皇となる 29 歳の東宮殿下が東北 6 県を旅行された．腸チフス，赤痢，ジフテリアなどが普通にある時代，迎える自治体の苦労は大変なものだった．このとき薬誌の 2 つの地区通信は論文並みのそれぞれ 4 ページ．薬学関係者が大いに活躍している．

仙台は，御飲料水に苦労した．数十種の井水を検査し(固形分，$KMnO_4$ 消費量，Cl，SO_4，NO_3，NH_4，重金属，細菌数など)，さらに松島，塩釜の水 8 種の成績を録し，東宮職の選定を仰ぐ．その結果，市内大野邸井水，旧藩主伊達邸井水，松島瑞巌寺泉水のほか 4 種が合格した．薬誌にはその分析結果がある．合格水の 1 cc あたり細菌集落数は 15～66 個であった．

牛乳も苦心する．仙台市の乳牛，一千余頭から種類，体格，系統，乳分泌期間，乳質，乳量で理想に近きもの求むるに，その数甚だ僅少なりしかば，技手を牧場に派遣．色，臭，鏡検(脂肪球は均等かどうか)，比重，灰分，脂肪，乳糖，たんぱく質を調べ，5 頭を選び東宮職の決定を待つ．結果，市内早川氏所有の 2 頭に帰せり．この牧場は百数十頭を飼育し，病(結核)牛は常に見ず，飼料は自己の耕作になるものを使用していた．2 頭のためだけに牛舎，運動場，搾乳所を特別に用意する．

蔬菜は伊達家の経営する養種園から，魚は遠洋漁業者 白石広造から，鶏肉鶏卵は宮城家禽協会，氷は青葉城裏の氷池から，いずれも技術者が検査して御料に供せり．

岩手県は御膳水として，市内最良水の旅館内，および周辺井水 5 カ所を検査，東宮職はそのうち 1 つを指定(菌落数 125)．御料乳は 39 頭中 14 頭の乳を選び定量分析，その結果推薦した 5 頭のうち，1 頭が指定された．

小林　力